

数値の向こうに児童生徒の顔を思い浮かべて

～令和3年度全国学力・学習状況調査の分析のポイント～

8月31日、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されました。教科学力調査について、(今回の出題内容に関しては、)臨時休業期間の長さや各教科の平均正答率との間に相関は見られませんでした。これはコロナ禍においても、**懸命に学習指導に当たって児童生徒の学力を維持して下さった各学校の努力によるところが大きい**と考えており、心より感謝しております。

一方で、児童生徒質問紙調査をみると、「**自分には、よいところがあると思う**」等の自己有用感が小学校において低下している等、“児童生徒の前向きな気持ちに陰りが生じているのではないか”という点が危惧されます。コロナ禍の生活が児童生徒の気持ちに及ぼす影響は未知数です。**数値の向こうにいる児童生徒一人一人の状況を把握し、適切な支援を進めるよう**お願いします。

広島県全体では、例えば、次のような質問項目で肯定的回答が減少しています

質問項目 (挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感等)	小学校			中学校			自校の結果		
	R3	R1	R3-R1	R3	R1	R3-R1	R3	R1	R3-R1
自分には、よいところがあると思いますか	78.4	84.4	▲ 6.0	79.8	78.1	1.7			
将来の夢や目標を持っていますか	81.0	86.8	▲ 5.8	72.0	75.4	▲ 3.4			
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	73.0	82.2	▲ 9.2	70.6	75.3	▲ 4.7			
学校に行くのは楽しいと思いますか	82.8	87.0	▲ 4.2	81.7	83.3	▲ 1.6			

※ 「1当てはまる」「2どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)の合計



Q「4当てはまらない」と回答している児童生徒は誰ですか。
 Q コロナ禍の前(令和元年度)と比較してどうでしょうか。
 Q 対象学年以外の状況(独自アンケート等あれば)どうでしょうか。
気になる児童生徒の情報を全校で共有し、サポートにあたりましょう。

教科に関する調査【引き続き課題が見られた内容】

- ① 複数の文章や資料等を結び付けて必要な情報を見付けること
 - ② 日常的な事柄を(数学的に)解釈したり説明したりすること
- 国語、算数・数学だけの課題と捉えず、授業改善のポイントとして参考にすることが大切です。



全国学力・学習状況調査 関連参考ホームページ

国立教育政策研究所

令和3年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料

<https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/index.html>

令和3年度 全国学力・学習状況調査【広島県】調査結果資料

https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/factsheet/34_hiroshima/index.html

広島県教育委員会

広島県学力調査報告書等について

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/gakuryoku-houkokusyor01.html>



「各問題の分析結果と課題」など詳細な報告書や広島県の調査結果が掲載されています。

過去の学力調査報告書や授業改善のポイントがまとめられています。

IPPPO～校内研修支援プログラム～を9月中に提供予定!!



「IPPPO(いっぽ)」は、各学校のデータを読み込み、正答率下位三問や平均正答率40%未満の児童生徒がつかずしている問題などを抽出し、校内研修用のシートを作成する広島県独自のプログラムです。各学校において、「IPPPO」等を活用し、自校の児童生徒の実態や指導の状況を踏まえた組織的・計画的な指導改善を進めていただきたいと考えております。